

氏名 太田雅子

職位 教授

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
総合演習Ⅱ（社・太田）	3	キリスト教教育	14
キリスト教保育	21	こどもと言葉	33
子どもの健康と安全	28	国際教育実習Ⅰ	8

2. 理念

できる限り、個々の学生との触れ合い（可能であれば人格的）を持つ。

3. 方法

ゼミ、実習指導を中心に個別相談の時間を設ける。

4. 成果

ゼミにおいては丁寧な指導を行うことができた。実習指導においても日誌の作成等に苦勞している学生に対して個別支援・指導を実施した。

5. 改善

管理職としての兼職を複数もつためかなり多忙ではあるが、スケジュールを調整して学生とのやりとりの時間を確保したい。

6. 教育活動

卒業生が多数就職している聖隷福祉事業団での保育（実践研究発表）についての助言、聖隷クリストファー小学校・こども園との連携での学生の学びの機会を作った。

氏名 藤田美枝子

職位 教授

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
臨床心理学	35		

2. 理念

学生が大学で学ぶ課程で大切なことは、「自分自身で問いを考えていく」という点にあるだろう。

このことが、それまで受けてきた小学校・中学校・高等学校の教育とは大きく異なる点であると考えます。

学生が受け身でなく、自分から能動的な学びが可能となるような教育を目指したい。

3. 方法

具体的には、毎回のリアクションペーパーを活用し、各自が意見を述べ、それらを皆で共有し、もう一度再考するというプロセスを行う。学生一人一人が実践できる問いを課題とし、それらへ応えるためによく考え、自分の意見として表現する必要がある。さらにその後、他の学生の意見を共有することで、自分自身の新たな問いへと発展させることをねらいとしている。

4. 成果

臨床心理学の授業の後半において、毎回の講義内容を反映した心理検査を用い「やってみよう」として取り組ませた。その結果の整理と振り返りによって、それぞれの学生が自分では気付かなかった過去や現在、そして未来の自分についても熟考する機会となったことが、各学生のリアクションペーパーからわかった。

5. 改善

学生の興味や意欲をより引き出せるような工夫を考えたい。事例等を使ってのグループ討議等を取り入れることも検討したい。

6. 教育活動

学部の学生のアドバイザーは担当していないが、院生の教育相談や進路相談にあたっている。

氏名 鈴木光男

職位 教授

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
総合演習 I（社・鈴木）	5	総合演習 II（社・鈴木）	15
総合演習 II（19SC・社・鈴木）	1	教職実践演習（幼・小）	44
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	14	図画工作	42
図画工作科指導法	14	こどもと表現	34
保育内容（表現）	33		

2. 理念

倉橋惣三「驚く人であるということにおいて教師は詩人と同じである」という言葉通り、アートとしての教育を大切にしている。双原因性感覚に立った学修（習）者と指導者が相互に影響し合う創造的な学習モデルを基本としている。

3. 方法

教育現場の実践をもとにしながら、最新の教育思潮や国の動向を踏まえた理念や教育方法を授業内に取り込む。学生と共に思考し、検討・考察するようにする。

4. 成果

成果物（レポートや指導案など）と共に模擬保育や模擬授業で学生のスキルや姿勢を確認している。授業開始時はそれまでの学修の振り返りを大切にして導入し、学生個々人の課題意識に立った授業構成・内容とする。

5. 改善

総括的評価としての授業評価ばかりではなく、毎回のリアクションペーパーに形成適評かを視点とした評価欄を設けて、その都度ふり返り、次回の授業に活かすようにしている。

6. 教育活動

研究フィールドとなるカンボジアや地域、また小学校や中学校と重なるような授業(国際

支援アクティブラーニング・地域実践アクティブラーニングなど)実践を進めている。また、学校運営協議会の会長やコミュニティ・スクール・コーディネーターとなり、それぞれの学校に学生を派遣するなどして現場に基づいた教育活動を展開している。

氏名 飯田真也

職位 教授

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
総合演習 I（社・飯田）	3	総合演習 II（社・飯田）	6
教職概論（国際教育学部）	52	教育方法・技術論	29
算数	40	理科	23
生活	52	算数科指導法	21
生活科指導法	14		

2. 理念

受講者が小学校及び特別支援学校教諭として教壇に立つことを想定して、小・中学校や教育行政職の経験を踏まえて教育実践力を高める授業を行う。

特に、教員採用試験を突破する力を授業でつけることを目指す。

3. 方法

次のように科目の特徴に沿った授業方法を実施する。

- ①教科 : 教科書の背後にある理論的内容を問いとして考察
- ②教科指導法 : 模擬授業を中心とした授業力の向上
- ③教職教養科目 : ペアやグループ活動を活用した理解の深化

4. 成果

教職教養科目において、受講者の実態に応じて、ケーススタディにおいて「体感型ジグソー法」を開発し、理解深化を図った。

授業の先にある教員採用試験において、筆記及び授業面接等で教科・教科指導法、教職教養科目での授業履修効果が表れている。

5. 改善

教員採用試験を想定すると、GPAの上昇は厳しい。

そのため特別再試験等を活用して内容理解の促進を図っている。

なお、教員採用試験を想定した内容及び実態に応じた「体感型ジグソー法」等の導入によ

り、意欲面は向上していることが伺われる。

6. 教育活動

授業研究サークルでの授業力向上や、教員採用試験対策で求められる内容理解深化等での教育実践力向上に向けたサポート

氏名 和久田佳代

職位 教授

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
レクリエーション概論	120	レクリエーション概論	94
アダプテッド・スポーツ	26	総合演習 I（社・和久田）	6
総合演習 II（社・和久田）	15	基礎演習 I（EC・和久田）	18
基礎演習 II（EC・和久田）	17	体育	52
体育科指導法	14	こどもと健康	51
保育内容（健康）	34	乳児保育 II	27

2. 理念

神様から愛され、許されている存在であり、成長・発達する存在である学生とともに、学び合い、切磋琢磨し、生涯にわたって、成長・発達できるよう努める。聖隷の先達との出会いから学ばせていただいたことに感謝し、微力ながらその継承に尽力する。

3. 方法

対象の理解に努め、学びへの動機づけ、学び合いを大切に、学生がアクティブラーニング（主体的、対話的で深い学習）できるようにする。Society5.0 を見据え、WebClass や GoogleClassroom を活用し、学びを可視化し、蓄積していけるよう働きかける。

4. 成果

専門科目(体育科指導法)において、知識の定着のために、WebClass 確認テストを導入した。

5. 改善

既存科目に加え、2025 年度新規科目「発達支援総論」「発達支援演習」の準備も兼ねて、各科目での学生がどのような知識を得ているのか、実習や現場で求められていることは何かを探究し整理していく。その学びを既存科目にも反映させる。

6. 教育活動

1, 3, 4 年生アドバイザー

地域実践 AL（アダプテッドスポーツ）担当
パラだに顧問

氏名 DonaldPatterson

職位 教授

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
英語V	7	英語 I (月 1)	26
英語 II (月 5)	32	英語 II (月 6)	18
英語 III (看護英語)	32	英語 III (社会福祉学部)	5
総合演習 I (社・Patterson)	1	総合演習 II (社・Patterson)	3
こどもと英語	21		

2. 理念

My goal is to create an active learning environment. I want to create lessons for students to not only learn English, but to study in English. Plus, I will continue to devise activities that use technology effectively. 私の目標は、アクティブラーニングの環境を作ることです。英語を学ぶだけでなく、英語で勉強できるような授業を作りたいですね。さらに、テクノロジーを効果的に使ったアクティビティを考案していきたいと思います。

3. 方法

I aim to foster an active learning environment through task-based learning with interesting content, and a variety of communicative activities using pair-work and group-work. 興味深い内容のタスクベースの学習や、ペアワークやグループワークを使ったさまざまなコミュニケーション活動を通じて、アクティブな学習環境の醸成を目指します。

4. 成果

Student class evaluations have been positive with all classes ranging from an average of 3.71 to 3.83. Student comments have also been positive. 学生からの授業評価は、すべてのクラスで平均 3.71~3.83 と良好な結果が得られています。また、学生からのコメントも好評です。

5. 改善

While student evaluations have been positive, it is important to keep lessons fresh. This means updating content, trying new activities, and using technology as appropriate. 授業評

価は良好ですが、授業を常に新鮮に保つことが重要です。つまり、内容を更新したり、新しいアクティビティを試したり、適宜テクノロジーを活用したりすることです。

6. 教育活動

To keep my classes fresh, I attend English teaching conferences to learn new teaching methods and speak with English textbook publishers to make sure students' have appropriate textbooks. In my research, I study about learner motivation in order to help students develop a positive attitude towards English. I recently published the article below about university students' learning beliefs in English and nursing. 授業の鮮度を保つために、私は英語教育学会に出席して新しい教授法を学び、英語の教科書の出版社と話をし、学生が適切な教科書を使えるようにしています。研究面では、学生が英語に対して前向きな姿勢を持てるように、学習者のモチベーションについて研究しています。私は最近、英語と看護における大学生の学習信念について、次のような記事を発表しました。

URL : <https://journals.sagepub.com/doi/10.1177/00332941241232895>

氏名 二宮貴之

職位 准教授

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
音楽(月 4)	2	音楽(月 6)	39
音楽(月 6)	13	総合演習 II（社・二宮）	21
基礎演習 I（EC・二宮）	17	基礎演習 II（EC・二宮）	17
こどもと音楽	45	音楽科指導法	14
こどもの歌と伴奏	23	器楽	49

2. 理念

楽に関する科目の中で大切にしている事は、創造性と独創性です。

個性と協調性を爆発させて自分の殻を破る事が芸術科目では大切だと思います。

人との違いに恐れなくて、自分らしく音楽表現を追究して欲しいと思います。

3. 方法

音楽の授業では世界各国の民族音楽や民謡など様々なジャンルに触れる事で鑑賞のスキルを磨いていきます。

それらで培った他国や他民族の音楽性の違いなどを感受した上で様々な歌唱や音楽表現活動を通して実践的にスキルを磨いていきます。

授業の科目としては国際教育学部で展開される音楽系の科目が該当します。例えば、器楽、こどもと音楽、こどもの歌と伴奏、音楽科指導法などです。

4. 成果

自身の音楽性を磨き、他者の音楽を聴き、比較検討するなどを通して総合的に音楽性を磨きます。

そうする事で入学段階では表れていなかった高度な音楽表現や演奏が可能となります。

5. 改善

音楽の授業では抽象度の高い指示が頻出します。例えば、ここは「なめらかに、流れるように、ツーツーツと弾いて/演奏して」など。

出来るだけ指導場面では学修者が理解できるような例え話を用いながら指導するように心掛けます。

例えば、ピアノ演奏のフレーズ終わりがリタルダンドで緩やかに終わるのであれば、「曲の最後はアイスクリームの上のツノをイメージしながら、ブツ切れにならないように演奏しよう」などより身近な例えを用いて伝えたいと思います。

6. 教育活動

出来るだけ理論と実践を織り交ぜながら教育活動を展開していこうと考えています。

氏名 福重浩之

職位 准教授

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
文学	76	日本語表現法	101
総合演習Ⅱ（社・福重）	21	基礎演習Ⅰ（EC・福重）	17
基礎演習Ⅱ（EC・福重）	17	教育実習指導(20SC)	43
教育実習指導(21SC・小)	39	教育実習（幼・小）(20SC)	43
教育実習（幼・小）(21SC・小)	26	国語	42
国語科指導法	21	小学校インターンシップⅠ	21
小学校インターンシップⅡ	13	インターンシップⅠ（SC）	2

2. 理念

学修や活動の主体を学生側に置くこと、そして、知識を自ら獲得していくことを中心とする。

3. 方法

小集団活動を中心に、課題を協働しながら解決していく授業を取り入れている。

4. 成果

他者の考えを聞くことで、自らの考えが豊かになっている。また、自らの考えを他者に伝えようとする姿勢がよく見られる。

5. 改善

小集団でまとめた考えをプレゼンテーションする方法を改善していきたい。

6. 教育活動

読解力プロジェクトに取り組み、文章を要約する力を育て、書く力にも繋げていく。

氏名 内山敏

職位 准教授

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
心理学概論	104	発達心理学	78
公認心理師の職責	25	総合演習 I（社・内山）	2
教育心理学（社会福祉学部）	34		

2. 理念

学問に対する興味や探究心を芽生えさせ、それらの深め方を伝えていく。

3. 方法

授業において教員が示す情報は単なる知識としてではなく、現実のできごとと重ね合わせて想像できるような情報として提供する。

常に学生の理解度を汲み取りながら授業を構成するために学生との双方向の関係を重視する。主にはリアクションペーパーを利用して学生の疑問の解消や発展的な知識を提供する。

4. 成果

学生のリアクションペーパーが多く寄せられたため、方法の有効性を実感している。

5. 改善

学生の授業内態度、特に私語については積極的に指摘し（注意するというよりは、自己の行動が学習環境に影響を与えうるといった客観的自己覚知の重要性を伝えるイメージ）、授業の快適性を上げ、学生の集中力の維持を後押しする。

6. 教育活動

学生からの学業や生活に関する相談は積極的に関与するが、学生の自己決定力の成長を促すことに力点を置く。

氏名 モーテンヴァテン

職位 助教

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
総合演習Ⅱ（社・Vatn）	12	国際バカロレア教育概論	9
国際バカロレア教育課程論	9	国際バカロレア教育方法論	14
国際バカロレア教育学習アセスメント	14	国際バカロレア教育総合演習	14
国際バカロレア教育課程論(IB 履修証明プログラム)	7	国際バカロレア教育方法論(IB 履修証明プログラム)	14
国際バカロレア教育学習アセスメント (IB 履修証明プログラム)	14		

2. 理念

国際バカロレア教育においては、主体性と自己効力感を示す模範的な教師が求められます。私は教師として自尊心と影響力を持ち合わせ、インスピレーションと革新性を示す模範を目指します。しかし、授業中には「ファシリテーター」、「ジェネレーター」、「モチベーター」として、様々な学習者の状況に合わせて柔軟に役割を変えることが重要です。これらの役割を尊重し、バランスを取りながら取り組んでいきたいと考えています。特に「モチベーター」としての立場に興味があります。授業中の「探究」活動では、「教える」だけでなく、「刺激」を用いて学習意欲を高めることが必要です。また、「モチベーター」の役割は教師だけでなく、学習者自身も担うことができると考えています。学習者同士がお互いを高め合うことや、学習者が教師のモチベーターとなる「反転学習環境」の構築を目指します。さらに、学習者の興味・関心を引く出来事を見つける能力も重要です。

3. 方法

指導法として、毎回新しい『思考プロセスを可視化するルーチン』を取り入れ、ELPAAを用いて自己評価やピア評価を行う独自のシステムを構築します。PYP 教師としては、協働が重要であり、児童と教師双方が自身の進歩について問い続け、評価方法を常に考察する姿勢が求められます。そのため、ポートフォリオ（学習の証拠）による自己評価と教師による評価を実施します。ここで、学習のエビデンスを収集し、学習のモニタリングを通じて進

捗を確認することは、教育の質を向上させるための重要なステップです。学習の記録、測定、報告によって、指導に関する貴重な情報を得ることが可能です。

4. 成果

ポートフォリオ（学習の証拠）は成果を確保するための重要な方法です。指導計画の調整やルーブリックの作成においては、単独で行うのではなく、チームでの取り組みを重視しています。また、「前回の振り返り」という活動を毎回行い、重要な学びを復習し、そのデータを記録しています。

5. 改善

協同プロセスと学習者の主体性を向上させるため、以下の三つのポイントに注目し改善することが有効です。まず、「個人的なフィードバックとフィードフォワード」をより定期的かつタイムリーに行うこと。次に、「学んだ内容をどのように評価するか」という点で、ルーブリックをより理解しやすくすること。最後に、「学習に困難を感じたとき、どのように対応するか」という学習者と教師の関係性に焦点を当て、意識的に改善することが重要です。

6. 教育活動

実践授業において、小学校とこども園での経験を積み重ねています。また、大学に幼児児童を招き、大学生と共に授業を行うことで、異なる年齢層とのコミュニケーション能力を養っています。さらに、総合演習ではサレジオや名古屋インターでの実践を通じて、実際の学習環境に対応するスキルを向上させています。

氏名 杉山沙旺美

職位 助教

1. 教育の責任（科目責任者として担当する科目）

科目名	受講者数	科目名	受講者数
保育実習指導 I（20SC 生）	39	保育実習指導 I（21SC）	20
保育実習指導 II	36	保育実習 I A	20
保育実習 II	36	総合演習 I（社・杉山）	7
総合演習 II（社・杉山）	21	保育実践演習	40
こどもと人間関係	39	こどもと環境	34
保育内容（人間関係）	33	保育内容（環境）	34
保育実習指導 I（22SC）	26	保育実習指導 II	8
保育実習 I A	26	保育実習 II	8

2. 理念

「教員と学生が共に学び、共に成長する」「学び続ける人」

- ・理論と実践の繋がりや重なりを実感してほしい。
- ・社会課題や保育に関する諸課題を自分事として考えてほしい。
- ・語り合いの場面で、メンバーに関わらず、自分の意見を持ち発言することと他者の意見に耳を傾けることを実践してほしい。
- ・授業での学びを学生が実践者になった後にも振り返ることができるものにしたい。

3. 方法

- ・（視聴覚教材の使用）乳幼児の育ちのプロセスが理解しやすい視聴覚教材を活用し、乳幼児の視点に立って育ちの意味を考えることができるよう支援した。
- ・（オリジナル資料の作成）スライドおよびオリジナルワークシートを作成した。学生が主体的に講義に参加することをねらいとした。
- ・（ポートフォリオの作成とルーブリックによる評価）毎授業ごとにその時間のまとめや振り返りとなる課題を提示し、その課題やプリント等を挟んだポートフォリオを評価の対象とした。また、事前にルーブリック評価の内容を提示し、学生が授業を振り返り、自らの学びをより深める契機となることをねらいとした。
- ・（体験型学習の導入）栽培活動や探究活動（粘土・光など）を取り入れ、体験的な学びを意識した内容を取り入れた。また、模擬保育では、学生が保育者役、子ども役、評価者役、全ての立場を経験し、多角的に実践を考える機会を設けた。
- ・（ディスカッションの導入）毎回異なるメンバーでグループワークができるよう環境設

定し、ディスカッションテーマを提示した。ディスカッションの内容をメモに残し、それを説明・共有することで、学生が講義に主体的に参加することをねらいとした。

- ・(附属園・子育て広場と連携した演習型の授業の実施) 近隣の園と連携し、園見学や保育参加、絵本の読み聞かせ会を行う授業やゼミ活動を実施した。

4. 成果

- ・事例や画像の活用を通して、学生が具体的に実践や子どもの姿をイメージして語りあうようになった。学生の授業の感想の中にも「保育のねらいと子どもの姿をつなげて考えることができるようになった」「事例があることで、子どもの姿を具体的にイメージできた」と学びを実感している声があった。
- ・模擬保育の実践やグループワークを多く行ったことが学生に好評であった。
- ・ポートフォリオについて、前年度の記録を振り返り、学びを?げている姿があった。
- ・授業の振り返りの中で、学んだことを実践することの難しさや学ぶ意味を実感したという声があり、理論と実践の繋がりを考えるきっかけになっていた。

5. 改善

- ・映像教材の効果的な活用。
- ・学生が目的意識を持って取り組めるような導入や講義と演習の組合せ等授業構成の検討。
- ・質問しやすい環境づくりに努め、学生一人一人への対応をより丁寧に行う。
- ・実践現場との連携を深めていく。
- ・科目間、教員間での連携や学習の繋がりを意識した授業の検討。

6. 教育活動

- ・アドバイザー（学生指導、卒業研究指導）
- ・幼稚園教諭・保育士採用試験対策における学生指導